

平成27年1月20日(火)

老球の細道105号

「リック・ピティノーよ、あなたもか！」

会津バスケットボール協会理事長 室井 富仁

NBAシーズン真最中である。テレビで毎日のように見ているが今一つものたりない。なぜならNCAAバスケットボールが、ここ2年くらい見るができないからである。アメリカのテレビ局が放映権を独占してしまい日本では放送されない。

去年はリック・ピティノー率いるルイビル大学がとうとう優勝した。リック・ピティノーは、日本ではコーチKのようにメジャーではないが、私にとってはカリスマ的存在のコーチで、彼の作ったチームを常に注目していた。コーチ年俸も数億円稼ぐ。

彼の実績を簡単に説明すると、無名のプロビデンス大学をNCAAトーナメントでファイナル4に導き一躍脚光をあびた。その後ケンタッキー大学に移りNCAAチャンピオンに導く。NBAでもヘッドコーチを務め、ニューヨークニックスとボストンセルティックスを率いた。現在はケンタッキー州ルイビル大学でヘッドコーチを務めている。

彼の独創的なバスケットボールはコーチの垂涎の的である。特にオールコートプレスと3Pシュートを武器にしたシステムは、私のバスケットボール戦術観に大きな影響を与えてくれた。また、ピティノーのプロビデンス大学時の教え子ビリー・ドノバンは、フロリダ大学のヘッドコーチを務め、2006年、2007年と2年連続NCAAチャンピオンに輝いている。驚くべきことに、そのシステムはピティノーとうりふたつであった。

そんなピティノーの本が日本でも出版された。『成功をめざす人に知っておいてほしいこと』。そこに記された〈現在を大切に生きて生きる〉を紹介する。

【毎年、私は練習初日に選手を集めて人生の教訓について話します。スペンサー・ジョンソンの『人生の贈り物』という薄い本を読んで聞かせるのです。

それは少年と老人の話です。ある日、老人から「君はすばらしい贈り物を持っている。それに気づけば幸せになれる」と言われるのですが、少年にはその意味が理解できません。「それは何ですか？」と尋ねても、「自分を幸せにできるのは自分しかいないから、結局、自分で気づくしかない」という答えしか返ってこないのです。

数年後、若者は答えを見つけるために旅に出ます。しかし、洞窟やジャングル、海底などをいくら探しても、すばらしい贈り物は見つかりませんでした。

数十年後、老人になったときにやっと気づきました。答えは「現在」だったのです。過去でも未来でもなく「現在」が貴重な贈り物だから、今この瞬間を大切に生きていけば自分を幸せにできるという意味だったのです。

私たちは過去に執着し、自分の犯してきた間違いにとらわれています。しかし、過去は終わったことであり、間違いから学ぶことができれば、それでいいのです。

過去に執着していないとき、私たちは未来について心配します。未来に対して不安を感じながら夜ふと目を覚ますことがあるでしょう。しかし、そんな心配をしても疲れるだけです。私たちは過去への後悔や未来への心配ではなく現在の課題に集中することは、大きな恩恵をもたらすポジティブな態度です】

改めて思うことであるが、その道の達人は皆一様に同じことをいう。「今、この瞬間を大切に」と。ピティノーも例外ではなかった。